

令和 5 年度 県立鹿島高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	◇ 6年間を見通した教育実践をととして、確かな学力を育むことのできる学校			
	◇ 様々な人々との交流を通じて、豊かな人間性とコミュニケーション能力を育むことのできる学校			
	◇ 文武両道の精神のもと、心身の健全な発達を育むことのできる学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
昨年度は学校行事の実施のための制限が緩和され、校外学習、修学旅行、文化祭など様々な行事を実施し、学校全体に活気が出てきた。今年度は、昨年度まで実施していた他の附属中との連携行事がなくなるので、より学校として独自の特色を考えていく必要がある。ICTを有効に活用し、授業や働き方に工夫を凝らしながら、生徒も教職員もさらなるレベルアップを図れるよう日々努力を積み重ねていきたい。		学力向上に関する項目	生徒の学力向上に努める。そのために、学習指導の充実を図り、手段として ICT 機器の効果的な活用に取り組む。	A
		ICT 教育の充実に関する項目	県から 1 人一台貸与されている Chromebook を効果的に活用し、Google Classroom や Classi 等の学習支援アプリを活用した学習スタイルを確立させていく。	A
		基本的生活習慣の確立に関する項目	学校全体として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。	B
		探究学習の推進に関する項目	本校独自の探究の取組を考案し、実践しながら探究学習の充実を図る。	A
		コンプライアンスの徹底（「たいせつです」運動）及び働き方改革の推進に関する項目	「たいせつです」運動（体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止）の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規律の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。	A
		授業改善に関する項目	授業満足度（K P I）80%以上の達成	A

別紙様式 2 (中)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国 語	基礎・基本の確実な習得	小テストなど具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。	A	A	各学年とも小テストを継続して行い、基礎学力の向上を図る。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けさせる。	B		読解や演習を通して、論理的思考力の向上を目指す。
	個に応じた指導	授業観察・課題提出・小テスト等で生徒の学習状況や理解度を把握して、個に応じた指導を行う。	A		T 1、T 2 で連携を取り、個々の生徒に応じた指導を継続する。
社 会	基礎・基本の確実な習得	テキスト・プリント・小テストなどを活用し、基礎学力の定着を図る。	A	A	単元ごとに振り返り時間を設定し、基礎学力の定着を図る。
		ICT 機器を活用し、学習活動の工夫を図る。	A		クラッシーを有効活用する。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	社会的事象を、人間の営みと関連付けたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりする能力を身に付けさせる。	B		地歴公を横断的に、現代との繋がりを意識した学習課題を設定する。
	主体性の育成	調べ学習の機会や、発表の場を設けて、主体的に学習に取り組む姿勢を育む。	A		頻度の工夫 適切な機会設定
数 学	基礎・基本の確実な習得	課題を精選し、興味をもって取り組めるようにすることと、振り返りを重視し、学習に対する自己調整力を向上させる。	A	A	単元末テストを有効に活用し、基礎・基本が定着するまで粘り強く指導する。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	他者の意見を ICT 等を活用して可視化し、多角的なものの見方ができるようにするとともに、発表の機会を増やしアウトプットにより更に深く理解できるように促す。	A		利用の場面では特にグループ活動を多く取り入れ、思考力を向上させる。
	個に応じた指導	希望制による習熟度別学習を実施し、きめ細やかな指導を行う。	B		習熟度別が実施できるようにする。
理 科	基礎・基本の確実な習得	実験や ICT 機器の積極的な活用など生徒が主体的に活動する機会を増やし、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせることで、学習の確実な習得を図る。	A	A	Classi の Web テスト機能を用いた CBT 形式の単元テストを引き続き使用していく。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	自然の事物・現象を科学的な視点で捉え、比較したり・関係付けたりするなど、科学的に探究する方法を用いて考えさせる。	B		仮説をもとに実験方法を生徒達に考えさせる活動を取り入れる。
	「科学教育」の推進	学校外部の施設訪問や講演等を通じて生徒の興味・関心を促し、視野を広げさせる。	A		つくばサイエンスツアーを継続的に取り入れるのもよいのではないか。

別紙様式 2 (中)

保健体育	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	運動やスポーツの価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上が果たす役割を理解し、自己の適性等に応じた多様な関わり方と関連付けさせる。	B	A	より深い学びにつながるように指導する。
	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解する	様々な運動に取り組み、各種運動の基礎・基本技能の定着を目指す。	A		継続性を持たせる。
		運動における競争や協働の経験を通して、公正安全に取り組む態度を育成する。	A		怪我の予防を徹底する。
	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上に努める	健康の保持増進と体力向上を目指し、日常的、計画的に運動に取り組む態度を育成する。	B		自主的に取り組むきっかけを与える指導をする。
		現代の健康課題を明確に捉え、健康増進のための知識・手段を身に付けさせる。	A		新たな情報も含めて知識を高められるよう指導する。
芸術 (音楽・美術)	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けさせる。(音楽)	A	A	音楽を分析的にとらえ、感情や生活と関連付けられる題材を設定する
		感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりださせる。(美術)	A		感性や想像力を最大限生かす制作活動のできる題材を設定する。
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の持つ芸術的な価値意識を一層拡大できるよう工夫する。	A		今後も幅広い教材を取り上げる。
		生活を豊かにするための創造活動を重視し、基礎的な資質・能力を育成する。	A		生徒にとって身近なもののから芸術への興味を広げていく。
	我が国の伝統文化や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探究	日本の伝統音楽に触れる機会を増やし、歴史や考え方など発展的な学習を行う。(音楽)	A		今後も継続して題材に取り上げる。
		鑑賞や制作活動を通して日本の伝統美術の独自性を考察させる。(美術)	A		今後も継続して題材に取り上げる。
		それぞれの分野の歴史・背景・多様性について考察する場の設定・教材の工夫に努める。	A		鑑賞活動をより充実させていく。
	基礎・基本の確実な定着	T2 体制や少人数制をとり授業中の積極的な声かけを行うとともに、課題の点検、小テスト、スピーチ等を通して生徒の理解度を把握する。必要に応じて補習等を企画する。	A		日々の小テストやパフォーマンス評価を今後も継続する。
		具体的な学習サイクルを示し、家庭学習の定着を図る。	A		具体的な家庭学習の方法を今後も提示し、実施状況をこまめに確認していく。
	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	目的・場面・状況に応じて、情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築する。	A		英語を使う場面を多く設定しアウトプットの量を増やす。
外国語 (英語)	4 技能のさらなる向上	ALT とのコミュニケーションを活動を通して、ネイティブの英語に触れる機会を増やす。	A	A	ALT 主導の帯活動を今後も継続する。
		ICT 機器・アプリを積極的に活用することで4 技能5 領域の英語力をバランスよく身に付けさせる。	A		Writing や Speaking の指導で今後も積極的に使用する。
		英検 IBA や英検等の受験結果を分析し、実態に応じた授業計画を立てる。	B		外部試験を基にした習熟度別のクラスを実施していく。

別紙様式 2 (中)

技術・家庭	「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の実現	生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化させる。(技術)	A	A	生徒の実態を把握し、身近な題材を用いて授業を行う。
		家庭分野で学習対象とされている生活事象を、「協力・協働、健康・快適、安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築」等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫させる。(家庭)	A		生徒の実態に応じて、学習活動を適切に設定し、授業を行う。
	生活に必要な知識と実習・実験の充実	実習・実験を通して技術の定着を図り、生涯にわたって自立した生活を創造できるようにする。	A		実習・実験を充実させ、基礎技能を生活で活かせるよう指導する。
教務	中高一貫教育校の運営の推進	グランドデザインを基に魅力ある教育活動を実施し、高校との円滑な連携に尽力する。	A	A	中高連携ワーキングチームを発足し、中高の円滑な連携に努めた。
	授業スタイルの確立	6年間を見通した学校としての授業スタイルを確立し、充実した学習環境を提供する。	B		ICTを活用した授業展開を、中高で連携し取組始めた。
	授業時間の確保と行事の調整	計画的に行事を行えるよう調整するとともに、授業時間の確保に努める。	A		学校行事を精選し、授業時間の確保に努めた。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活リズムの確立を図る。	A	A	生徒自らがルールを守る意欲を持てるような機会を作りたい。
		集団生活の中でルールを遵守する精神の育成に努める。	A		回数を増やしたい。
	交通安全教育の推進	講演会の実施や校外指導等を通じて、交通安全教育を行い、事故防止に努める。	B		情報モラルを高める指導を増やしたい。
	情報モラルの育成	情報活用能力の育成を図ると同時に情報モラルの育成に努める。	A		生命の大切さを考える指導をする。
	人権尊重の精神の育成	集会や道徳の時間等様々な時間を使い、命の尊さについて考えさせるとともに、偏見や差別のない学校生活の構築に努める。	A		
進路指導	適切な進路情報の提供	定期的な進路資料の作成・配付、面談時の資料提供等を行う。	A	A	保護者に対する面談資料に進路に関するものを入れる。
		中学3年間、高校を含めた6年間を見通した進路指導を計画・実施する。	B		中学と高校の進路指導、学習指導の系統化を図る。
	計画的な進路指導の実現	学年・教科と連携して、模試・検定を実施、サポートし、生徒実態把握やキャリア形成に努める。	A		3年間のどこでどのような進路指導を行うのか計画を練る。
	探究学習と連動した進路指導の実現	インターンシップや体験授業等、探究学習と連動したキャリア教育を実施していく。	B		探究学習や進路指導と連動させた体験学習を行う。

別紙様式 2 (中)

特別活動	生徒会活動の充実	生徒による主体的な生徒会活動が行われるように支援する。	A	A	生徒が中心となって学校行事を運営する。
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	A		部活動の地域移行を推進する。
	ホームルーム活動の充実	キャリアパスポートや手帳を活用して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにさせる。	A		毎日の振り返りを通して進路を意識する指導をしていく。
	学校行事の充実	生徒が中高で連携して、学校行事等の企画運営が進められるよう支援する。	B		文化祭を高校と連携して運営する。
図書視聴覚	図書館の環境整備や広報活動	高校と連携し、生徒が本に親しめる利用しやすい環境づくりを行う。	A	A	ブックカフェの充実した運営
	生徒の読書意欲の向上を図る	生徒図書委員による活動を支援し、朝の読書などを通して生徒全体の読書意欲向上を図る。	B		「朝の読書」の円滑な運営。 生徒図書委員会の活発化。
渉外	PTA 活動への協力	高校の PTA に協力して PTA 総会などの各種事業を推進する。	A	A	保護者への連絡等をスムーズにできた。
	スクールバスの円滑な運営	スクールバスの定期券発行から定期券販売まで円滑に実施する。	A		ミスなく円滑に集金等を実施できた。
保健厚生	校内環境の整備	校内の施設整備の定期的な安全点検を行い、管理徹底に努める。	A	A	工事の関係でワックスがけを実施しなかった。改修され t 箇所はきれいに使わせていきたい。
	環境美化意識の高揚	ゴミの分別処理やワックスがけなど校内美化に務める。	B		
	防災・防犯訓練の実施	防災避難訓練を計画的に実施し、災害時の対策を徹底する。	A		
教育相談	困り感を持つ生徒に対する支援	生徒指導部等と連携し、困り感を持つ生徒を把握し、S C や巡回相談などにつなげ、必要な支援を行う。	A	A	1 年生の全員面談の実施時期の見直しと面談時間を増やす。
情報	生徒情報管理の徹底	Google Workspace for Education (Classroom など)、Classi、Benesse ハイスクールオンライン等の生徒情報の管理・更新を行う。	A	A	引き続き適切な管理を行う。
	ICT 機器の整備・管理・更新	ICT 機器の整備・管理・更新等を適切に行い、ICT 教育が円滑に行えるようにする。	A		ICT 機器の充実を図る。
	校務支援システムの運営	県立学校統合型校務支援システムの適切な管理・運営を行う。	A		適切な成績管理を継続する。
	働き方改革の推進	文書や教材などを共有、分担し業務の平準化をめざす。	B		分担を進めていく。
広報	中高連携した企画運営	中高職員で連携し、保護者、小学生にとって有益な情報を発信する。	B	A	説明会等を引き続き実施。
	積極的な情報発信	ホームページの運営を適切に管理する。 Classi を活用して、必要な情報を生徒や保護者に発信していく。	A		ホームページの更新や Classi の活用の継続。
	広報活動の刷新	スクールガイド、クリアファイル、ポスターを製作し、地域に見える広報活動を行う。 地域や保護者と情報共有できるように刊行物の配布等を行う。	A B		継続して広報活動を行う。 鹿苑だよりをもっと発行したい。
給食（食育）	正しい食事のあり方や望ましい食習慣の育成	衛生面に配慮し、食前の手洗い・消毒を徹底させる。	A	A	衛生指導の徹底。
		食事に対する正しい知識とマナーを身に付けさせる。	A		資料や栄養指導の充実。

別紙様式 2 (中)

1 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	毎日の清掃や時間を守るなどの生活のきまりを遵守することを通して、自律心と学級での共生意識を育む。	A	A	基本的な生活習慣の充実と、生徒への適切な声かけと指導を引き続き行う。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	授業や家庭学習を大切にし、手帳などを用いることを通じて、自己調整力を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育成する。	A		家庭学習への指導を通し自己調整力・自律心を伸ばす。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	特別活動への積極的な参加・活動を通して、適切な声かけを行い、生徒が自分の力を発揮できるよう支援する。	A		自己を尊重しクラスへの帰属意識が持てる活動の模索。
2 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	自分自身の言動に責任を持ち、きまりや時間を遵守させることで、基本的な生活習慣を確立させる。	B	B	チャイム着席や携帯電話の使用などの決まりを自主的に守れるように指導を行う。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	授業や家庭学習を大切にし、積極的に検定にチャレンジするなど、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	B		家庭学習を定着させる。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	特別活動に積極的に参加することを通して、自分の良さを確認したり、他者の良さを認めることができる気持ちを育てる。また活動を通して、他者と協力し合うことの大切さを実感させる。	A		引き続き、学校生活全般で、指導を行う。
3 学年	基本的な生活習慣の確立と意欲・責任感の育成	最上級生としての自覚をもてるような声かけを行い、学校行事や学校生活への意欲づけと基本的な生活習慣の確立を目指す。	A	A	高校生になってもきちんとした態度で生活するよう指導する。
	主体的に学習に取り組む態度の育成	日々の授業を大切にするとともに、主体的に学習に取り組む態度と、家庭学習の習慣を身に付けさせる。	A		毎日の学習を怠らないよう指導する。
	特別活動に積極的に参加する態度の育成	将来の進路に向けての情報発信を行い、中学・高校卒業後の進路目標を定められるようにする。	A		将来を見据えて考えられるよう、情報発信をし続ける。

※ 評価規準：A：大変よくできた B：よくできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分